

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	5 月 13 日 ( 火 )	宮下 麻衣

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス～自然～ 公園にあるものを調べる②		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
以前の活動から、戸外に行くと草花や虫などに興味を示す姿が今まで以上に多く見られるようになった。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:10	～導入～ 前回の活動を振り返る。	前回と同じメンバーのグループごとに座る。 図鑑や、ネットで調べたこの時期の草花や虫が乗っているページを用意しておく。
10:15	～活動～ 前回行った公園で見つけた草花や虫の写真を見て、図鑑で調べる。	図鑑で調べきれない時は、保育者が介入しネットを使用して調べる。
11:00	～次につなげる活動～ 次回は、今回調べた草花の名前や虫の名前をグループごとに新聞を作ることを伝える。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園で見つけた植物の写真を見て、名前が分からない物を調べる。</li> <li>・グループ活動の為、手分けをして別々の植物を調べ、分かったら保育者や他組に教える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人用の植物、昆虫図鑑をもらい嬉しそうに調べていた。</li> <li>・公園で見つけた植物以外にも、自分が好きな植物を見つけると嬉しそうに保育者や他組に見せていた。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>たんぽぽには「西洋たんぽぽ」「かんとうたんぽぽ」があるように、同じような見ためでも種類によって名前が違うことが分かった。</p>	<p>・個人の植物、昆虫図鑑があることで、早くに調べていましたね。公園に行くときも持参して、それ以外が好きなものを調べたりできるように興味を上げて下さい。</p> <p>グループになってみんなで調べている姿はとても嬉しかったです。次回の新聞作りは期待を寄せていたので、子どもの発想をとりあげていってください。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	7月 16日 (水)	寺崎 宮下

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～水～①		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水遊びが始まり、水に触れる機会が増えたことから水の性質について疑問を持つ姿が見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:35	<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水とは何か考える。</li> </ul>	<p>【準備物】</p> <p>ホワイトボード、マーカー、たらい、水色の絵の具、透明なカップ、様々な形の容器、スロープ（牛乳パックで作成したもの）</p>
10:40	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>色の種類の中に「水色」というものがあるが、水は水色？</li> <li>▶コップに水を入れて、どのような色か見てみる。</li> <li>・コップに水を灌ぐ音はどのような音？</li> <li>▶コップに水を入れて、どのような音が鳴るか聴いてみる。</li> <li>・水の形はどのような形？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの意見をホワイトボードにまとめる。</li> <li>・子どもの予想をホワイトボードにまとめる。</li> </ul>
10:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶様々な形の容器に水を入れ、水の形の変化を見る。</li> <li>・水の流れを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの意見をホワイトボードにまとめる。</li> </ul>
10:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶スロープを使って水を流し、水の流れを観察する。水の流れを早くするためにはどうしたら良いか考えて実践してみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの予想を実際にやってみようにする。色水を使った補遺が流れが見やすいので、先ほど使用した水色の水を使っても良い。</li> </ul>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入として 絵本「しずくのぼうけん」を見る。(水とはを考えると)</li> <li>・水って何色?</li> <li>・水の色(透明)と水色があるが、何で色が違うのに水色と呼ばれているの?</li> <li>・水の形ってどんな形? などの疑問を子ども達と考えた。</li> <li>・スロープから水を流して、流れる速度についての考察と実験も行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水って何色? と考え、透明カップに入った水を見て「透明」の他、「〇〇ちゃん(対面に座る園児)が見える」と嬉しそうに話していた。</li> <li>・水の色と水色について、何で水色と呼ばれているかと、保育者から聞かれると「何でだろう?」と不思議そうに考え込んでいた。</li> <li>・スロープを使っての実験では、スロープから水を流す、スロープの傾斜を調節する、両方を全員が行い、積極的に活動に参加していた。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の色を「グレー」「ガラスみたい」と言っている園児があり、大人にはない表現が面白く感じた。</li> <li>・身近にあり過ぎて深く考えたことのない水。色や形、そそぐ時の音など一つひとつ考えていく事で、不思議や疑問が生まれてくる事が分かった。</li> </ul>	<p>普段何気ないことも視点を当てるとで子どもの色々な「何だろう?」が広がっていくのがわかります。水色って考えればはなれてもいい。又、水の大切さや他にある水を採ったり考えたりするとも水から考えを採る心が広がっていくと思います。水を採りに行くお散歩の時にいろいろな水も採っていい。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	10月 23日(木)	寺崎、宮下

● 実施計画

活動テーマ		
アート ～色のふしぎ～③		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
製作時に絵具を使うと色にこだわる子どもや、色画用紙にペンを使って文字を書く際には目立たない色はどのような色なのかを考えている子どもが多い。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:45	<p>【導入】</p> <p>◎前回の活動の暖色・寒色・中性色について振り返る。</p>	<p>・前回の活動でしようした図を用いて振り返りができるようにする。</p>
10:55	<p>【活動】</p> <p>◎3色双眼鏡を作ろう！</p> <p>・3本のトイレットペーパーの芯に、赤・青・黄のカラーセロファンをそれぞれ貼り付ける。</p> <p>・完成した子どもは、油性ペンを用い、側面に自由にお絵描きをする。</p>	<p>・子どもが自分の力で双眼鏡を完成させられるように、見守っていく。必要に応じてアドアイスをしていく。</p>
11:20	<p>◎双眼鏡を覗いて色々な物を見よう！</p> <p>・双眼鏡を通して様々な写真を見て、どのように見えるか意見を出し合う。</p>	<p>・自ら発言することに慣れられるように導いていく。</p> <p>・子どもの言葉を拾い、ホワイトボードにまとめていく。</p>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
① 暖色、寒色、中性色の振り返りを 行う。	④ 食べ物を赤の双眼鏡で 見た時、「苺がもっと赤く見える」
② 暖色(赤)、寒色(青)、中性色(黄色) の双眼鏡を作る。 → トイレットペーパー(3色のセロファン) を貼る。	「ブルーベリーが本物に見える」と 発表する園児がいっぱい。保育者が 「もっと美味しそうに見える？」と質問 すると「見える！」と答える園児が 多かった。
③ 作った双眼鏡で色々な物を見る	⑤ 赤と黄色の双眼鏡で見ると 「きれい」青の双眼鏡で見ると 「暗くなる」と言う園児が多かった。
④ 双眼鏡で食べ物の写真を見る	
⑤ 双眼鏡で花の写真を見る ※ 色により、それぞれどう感じ たかを発表する。	

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・双眼鏡作りではトイレットペーパーの周りに絵を描き楽しそうだった。「〇〇までにお絵描きを終わりにしよう」と具体的な声掛けをすることで、全員が時間内に完成できた。</p> <p>・青の双眼鏡で食べ物を見た時「へんな色だから食べたくない」と言っていたが、子どもにも美味しそうに見える色、食べたくない色があることが分かった。</p>	<p>赤と黄は食べ物でも多い色で、それも双眼鏡でみるとさらに色が強調されて美味しそうに見えた(きれいに見えた) (たよ) 子どもの感性をおもしろく見つけた。</p> <p>青の双眼鏡で見ると暗くなる、へんな色と感じたのはお世なおのほう。</p> <p>青色がきれいに見えるのは何なのだろう子どもと一緒に振り返るとおもしろい発見。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 めろん 組	1 月 9 日 (金)	寺崎、宮下

## ● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねってなんだろう～① お金ってなあに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃の生活の中で、家族との買い物で金銭のやり取りやキャッシュレス決済の場面などに触れる機会やお年玉やお小遣いなどをもらう機会があり、「お金」という存在を意識し始めている。		
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物	
時間	内容	
10:00	<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 買い物をする時に何が必要か考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもが意見を言いやすい環境を作り、子どもの意見をホワイトボードにまとめていく。</li> <li>・ 「お金のれきし」について伝える。(資料1-1-1参照)</li> <li>・ 模擬商品カードを一通り簡単に子どもに見せ、どのような商品があるか事前に確認できるようにする。</li> <li>・ 模擬商品カードを1人5枚ランダムに配布する。</li> <li>・ 子どもが意見を言いやすい環境を作り、子どもの意見をホワイトボードにまとめていく。</li> <li>・ 「お金の始まりや役割」について伝える。(資料1-1-2～4参照)</li> <li>・ 次回の活動を伝え、次の活動に期待を持てるようにする。</li> </ul> <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホワイトボード</li> <li>・ ホワイトボードマーカー</li> <li>・ 模擬商品カード(1人5枚×人数分)</li> <li>・ 資料</li> </ul>
10:10	<p>【活動】</p> <p>◎お金ってなんのためにあるの？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何のためにお金があるのか考える。</li> <li>・ お金がなかったらどうなるか考える。</li> <li>・ 昔は物と物を直接交換していたことを知る。</li> </ul>	
10:20	<p>◎物々交換を体験しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬商品をお互いに納得して物々交換できるかやってみる。</li> <li>※最初一人5個の模擬商品を持つが、お互い同意の下であれば、同じ数ずつの交換でなくても良い。</li> <li>・ 物々交換をやってみて分かったこと、感じたこと、上手いかなかったことなど意見を発表する。</li> <li>・ 交換が上手いかなかったものは、どのように交換するとよいかみんなで考える。</li> </ul>	
10:40	<p>◎お金の始まりを知ろう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お金の始まりやお金の役割について認識を深める。</li> </ul>	
10:50	<p>【次回に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の活動では、今の日本のお金について調べることを知り、期待を持つ。</li> </ul>	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>①。買い物をする時に必要なものを考える。</p> <p>②。何のためにお金があるか考える。</p> <p>③。お金がなくなったらどうなるか考える。</p> <p>④。昔、物々交換をしていた事を知る。</p> <p>⑤。商品カードを使って物々交換を体験する。</p> <p>① 1つ ↔ 1つ</p> <p>② 1つ ↔ 3つ など 数は自由</p>	<p>③ 「生活が大変」「悲しい」「貧乏になっちゃう」などの意見が出た。</p> <p>⑤ 1つ ↔ 1つの物々交換では、家電の価値や、水、電気、ガスの大かさなどをあまり気にせず交換していた。お肉を持ってくる園児に保育者が「ガス(火)があればお肉が焼けるね」などアドバイスをする事で生活のしやすさにも意識を向けるようになった。物々交換をした感想は「欲しい物を見つけるのが大変」「昔の人は(お金がなくて)大変だ」と思ったなどの意見が出た。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>物々交換では、大人は「同等の価値」や「金額」で交換しようとするが、子ども達は「自分の好きな物」を欲しいと思っ様子だった。家や車は高いという事が分かるようで、最後まで大事に手に置いて、いる姿が見られた。</p>	<p>昔は物々交換だったことを体験したが、これに比べて物と物との価値感の差が大きいもの、ほしいものに興味関心が高まるのは子どもらしいなと感じました。高いものは感覚としてわかるようで、お金の価値という点ではまだ来ていない様子でしたが、身近なお金というところに目を向けるよい機会だったと思います。</p>